

甲陽学院中学校

算数

2日間にわたって試験を行います。両日とも結果のみを答える問題1題（小問2～3問）と、記述の問題5題を出題しています。いずれも時間内に全問解答するには、かなりの計算力や、考えを組み立てる力を必要とします。結果のみを答える問題以外は、解答欄に結果を記入するだけでなく、その結果を導いた道筋がわかるように計算過程などを書いておいてください。結果が間違っても、部分点を与えることがあります。定型問題に正解することはもちろん大切ですが、日ごろから推理し、予想することを心がけてください。平面や空間の位置関係を想像することも大切です。

国語

2日間にわたって試験を行います。1日目・2日目とも、従来どおりの出題となります。記述問題は思考力を問う内容であるとよくいわれますが、問いのなかには基礎的な知識を問う問題ももちろんあります。したがって、その準備もきっちりとしておくべきでしょう。また、得点を積み上げるためには、読み取ったこと、考えたことを上手に伝達・表現する力が必要です。ふだんから他者がどう読むかという視点での答案作りを心がけましょう。

理科

朝永振一郎博士（1965年ノーベル物理学賞受賞）のことばに次のようなものがあります。
「ふしぎだと思うこと　これが科学の芽です　よく観察してたしかめ　そして考えること　これが科学の茎です　そうして最後になぞがとける　これが科学の花です」
理科の勉強はこのことばに尽きます。教科書の内容はもちろん大事ですが、日ごろから身の回りのこと、ニュースなどをはじめ、森羅万象に目を向けることを心がけましょう。初めて出合ったような問題でも、必ず糸口やヒントが隠されています。問1がわからなくても、問2は答えられることもあります。部分点をつけることもあります。問題全体を見渡す冷静な目を持つことを忘れないでください。

東大寺学園中学校

算数

2020年度も、2019年度と同じく大問4題構成でした。大問¹以外の問題の解答欄には、答えを書く欄と考え方を書く欄とが用意されています。答えが間違っていたり、最後まで答えを求められていなかったりしても、そこまでの過程が正しければ部分点を与えますので、必ず考え方の欄に図や式などを記入してください。2021年度も試験時間は60分です。まずは過去問をしっかりと学習してきてください。ただ、過去問を学習するなかで大まかな傾向をつかむくらいまではよいと思いますが、学習する分野などを決め打ちして絞り込まないようにしましょう。広くいろいろな分野を学習して臨んでください。算数の入試を通して、計算を正確に行う力、問題文を正しく読む力、図形を把握する力、考えを論理的にまとめる力などを総合的に判断します。

国語

漢字と語句、論説文、小説（随筆文）の3題構成です（漢字と語句の問題が別々で、4題構成の場合もあります）。漢字と語句については、パズルやしりとりなどの、いわゆる頓知を要する形式での出題はしません。あくまで文中での意味を考えて解くものです。漢字は、ゆっくり、大きく、ていねいに書くように心がけましょう。また、文字の形や骨組みがよくわかるように書きましょう。小説は登場人物の心情を、論説文は論理の展開を、それぞれ把握できているかどうかを見る問題が中心です。50～60字で要領良くまとめる設問や、100字前後でたっぷり記述する設問を必ず出題します。相手にわかりやすく伝えるという姿勢が大切なので、読点をしっかり使いこなす練習も必要です。

理科

大問は6～8題です。2020年度は6題で、物理分野2題、化学分野2題、生物分野1題、地学分野1題でした。各分野からまんべんなく出題することを心がけています。単なる知識の集積で解ける問題ではなく、知識を利用しながらも、図・グラフや説明をよく理解したうえで考える力を試す問題を出題しています。記述式の設問では、わかりやすい表現を心がけてください。日ごろから自然科学の現象に興味を持ち、新聞やテレビで報道される自然科学に関するニュースにも関心を抱いていると、解法が見いだせる問題もあります。

社会

地理・歴史・公民・総合（3分野の混合）の4題構成で、設問数は50問程度です。問題用紙の枚数は、2020年度は9枚に及びました。問題文を的確に読み取る力が求められます。小学校の教科書に基づいて作問していますが、6年生の教科書「下」の内容からも出題します。近年、社会的に注目を集めた時事的事項についても問うことがあります。全分野からまんべんなく出題し、基本的知識が習得できているか、知識を活用する力があるかを試しています。地理分野における図表を多面的に分析する問題などがあるので、過去問で傾向を把握しておくとういでしょう。小学校で習う漢字、歴史的事項や人物名、都道府県名などは漢字で表記すること。ひらがな表記や誤字は減点または不正解とします。

灘中学校

算数

2日間にわたって試験を行います。これまで第1日は結果のみを答える問題11～13題を、第2日は記述式の問題を中心に4～5題を出題してきました。2日とも時間内に全問解答するには、相当の学力が要求されます。問題文の長いものもありますから、読解力も身につけておきましょう。式や考え方も書く第2日の問題の答えは、結果しか書かれていないときは、その問題の配点に対し満点を与えることはありません。反対に、結果が間違っている場合でも、説明が途中まで正しいときは、部分点を与えることもあります。答案作りの練習もしてください。

市販されている問題集には見当たらない目新しい問題も出題するようにしています。そのような問題にも即座に対応できる柔軟な思考力が必要です。図形問題は、平面はもとより空間図形を正確にイメージする力が問われるものもあります。学校の授業を大切に、日ごろより研究心を持って物事を広く深く究め、理解しようとする努力をしてください。

国語

2日間にわたって試験を行います。第1日は、文章問題1題と、主としてことば（漢字・ことわざ・慣用句・外来語・短歌・俳句など）の問題です。基本的なもの、少しレベルの高いものなど、さまざまな形式で出題します。ふだんから意識して正しく日本語を使い、覚えるように心がけて、豊かな広がりを持つ日本語の世界への興味を深めてください。第2日は、文章を読んで内容を考える記述中心の問題で、詩も必ず出題します。文章は世の中のいろいろな現象に対する見方や意見を示しています。作者がどういうことを言いたいのか、何を訴えたいのかを常に意識して読み取ったうえで、出題者の意図に沿って答えることが大切です。主語・述語・指示語・接続語・語の省略などにも気をつけてください。

理科

<ふだんの心がけ>

小学校の授業・教科書を大切にしてください。身の回りの自然現象や科学ニュースにも関心を持つようにしましょう。簡単に実験できることは実際にやってみましょう。

<入試問題を解くに当たって>

- ・見たことがないような問題でも、考えればわかるように工夫して出題しています。また、どこかで見たような問題であっても、内容はまったく違うかもしれません。
- ・「解き方」や「公式」などの先入観にとらわれず、問題文をよく読んで、その場でしっかり考えてください。
- ・与えられた手がかりによく注意すること、問われていることに応じた答え方をすることがポイントです。

明星中学校

算数

計算問題、文章題、平面図形、立体図形を、毎年できるだけ偏りなく出題しています。答えのみを解答する形式なので、計算ミスや転記ミスに十分注意してください。

国語

説明的文章、文学的文章、「思考力・判断力・表現力」を問う問題、漢字の書き取りの4題を出題しています。字数制限のある問題では、少なくとも8割以上書いてください。字数をオーバーした場合や、誤字・脱字があった場合は減点になります。注意してください。

理科

物理や化学の分野では、計算問題もあり、解くのに時間がかかることがあります。できるものから解いていく習慣をつけてください。実験や観察の問題に対応するには、教科書の表・図・グラフも、注意深く見ておく必要があります。

社会

歴史・地理・公民の3分野からまんべんなく出題しています。いわゆる“用語”“語句”を覚えることに終始するのではなく、地図・グラフ・統計などを注意深く見るようにしましょう。また、現在の社会および世の中の動き、つまり時事問題にも関心を持ってください。

洛星中学校

算数

計算力をしっかり身につけてください。いつも出題されるような計算問題を速く正確に解けるよう、日ごろからよく練習しておいてください。つるかめ算・和差算・ニュートン算といわれるような、解き方の筋道に一定の定跡のある問題も出すことがあります。目新しさはなくても、限られた時間内にきちんと解答するのはけっして簡単なことではないので、よく準備しておいてください。割合の問題の考え方は、小学校の算数のなかでも極めて大切なものです。速さの問題などを通して、割合の考え方をしっかりと身につけてほしいと思います。式を書くことによって、考え方の筋道を整理していくことができます。日ごろから答えだけではなく、式を書くように心がけてください。問題に応じて、臨機応変にいろいろと工夫するのは大事なことです。一度解いた問題でも、どうすればもっと上手に解くことができるかを考える習慣をつけましょう。

国語

読解と表現を二本柱として、長文をじっくり読み通すこと、みずからの考えを記述して答えることを重視しています。小説の主人公の人物像や行動を読み取ることは、読者であるわたしたちの生き方や経験にかかわっています。日ごろから小説など数多くの文章を読むなかで、人の心の動きや考え方について学ぶようにしてください。漢字の書き取り問題では、残念ながら、字体の乱れた、読めない字を書く人がいます。正確に書けるよう、文字の形をきちんと意識して、ていねいに書く練習を怠らないでください。正確ではない文字には点数を与えません。選択肢問題、とりわけ内容読解の問題では、傍線部の周辺の数行程度しか見ないで答えている人が多いようです。どの問題を解くうえでも、全文をしっかりと読み通すことが基本になります。記述問題では、読むことに十分な時間をかけて、ていねいに考えて書いてください。特に、字数の多いものは、読み取って考えたことを自分のことばで存分に書いてほしいと思います。傍線部の前後だけ読んで引用で済ませたり、自分勝手な思い込みでストーリーを作ったりしてはいけません。記述問題の配点は全体の半分を超えることもあります。自分のことばで書いて表現する練習を十分にしてください。それには文章を自分の頭と心とでしっかり読み通すことが絶対に必要なのです。

理科

基本的な用語や法則、ものの名称や数値などはしっかり覚えてうえで、それらを使って説明や計算ができるようにしてください。教科書に出てくる実験や観察は、結果を暗記するだけではなく、器具・方法・条件などにも注意し、なぜそうなるのかを理解するようにしましょう。また、学習した内容は、現実に身の回りで起こっている現象と関係づけて理解するようにしてください。図やグラフは、正確に読み取るだけでなく、描くこともできるようにしておきましょう。理科以外の教科などで学んだ知識も、理科に応用して、関連づけて理解できるよう、大きな幅を持たせた勉強をしてください。新しいことを知る、わからなかったことがわかるようになる、解けなかった問題が解けるようになるということは楽しいものです。その楽しさを失わないで、常に興味を持って理科を学んでください。

社会

知識をきちんと身につけるとは、単にたくさん覚えるのではなく、それぞれの意味をしっかりと理解していくということです。人名などもいろいろな事柄と関連づけて覚えれば、おかしい混同や誤字はなくなります。6年生の教科書には最後まで目を通しておいください。本文や設問文を正確に読み取ってほしいと思います。記述すべき解答のポイントを正確に押さえるうえでも、国語力が必要です。なお、漢字で書ける部分は、できるだけ漢字で書く努力をしてください。

六甲学院中学校

算数

毎年、A日程・B日程とも同じ形式で、基本から応用まで幅広い分野から出題しています。本校に入学するには、少なくともこれくらいは解けてほしいという問題です。

算数で高得点を取るには、問題文をよく読み、問われている内容を正しく理解して解くように心がけましょう。少し複雑な問題文になると、たちまち混乱してしまう受験生がいますが、慌てると不注意による計算ミスが生じるものです。入学後に数学が得意になるためにも、問題文を正確に読み取る練習を小学生のうちからしておいてください。また、両日程とも7から9までの大問は、答えだけでなく、式や考え方なども書くよう指示しています。問題文で与えられた以外の数値を答案に書くときには、どうやって求めたのか、式や図などを使って説明してください。途中経過が正しく書けていれば、部分点を与えています。逆に、途中の式が書いてあっても、そのつながりがわかりにくい答案は減点しています。問題を解いた後に、答えが合っていたらそれによしとするのではなく、相手（採点者）に伝わるように、ふだんから式や説明をわかりやすく書く習慣を身につけてください。もちろん、これらの大問で答えしか書いていない答案や、作図問題で定規やコンパスを用いて作図していない答案は、その部分はすべて0点としています。

国語

例年、説明文（評論文）、物語文（小説）などの文章を偏りなく出題しています。漢字の書き取りと記述式の設問を多く出しているので、「書く」練習をしっかりと積んでください。本文全体の趣旨を問う記述式の設問を中心に、さまざまな設問を配していますが、いずれも文章の内容を深く的確に読解する能力を試すものです。ふだんから「確かな読解力」を身につけるように努力してください。また、長い文を書くときに、「て」「に」「を」「は」の使い方や、主語と述語の対応がおかしい答案が見られます。文末表現に注意して、自分の書いた答案を必ず読み返す習慣を、ふだんからつけておくようにしてください。

理科

2020年度入試では、基本的な知識を問う問題は、比較的よくできていました。一方、少し計算の難しい問題や応用的な考え方の問題で差が開きました。深く考えずに、機械的に式に当てはめて計算するというような勉強は避けて、「なぜ、そのような結果になるのか」「この計算はどうして成り立つのか」ということをしっかりと考える訓練をしてください。また、文章で説明する問題では、間違っただけの内容を書き足した答案や、説明が不十分な答案が散見されました。筋道を立てて物事を考え、必要な答えを自分のことばでわかりやすく表現する訓練もしっかり行ってください。今後も基本的な勉強を地道に続け、難しい問題、面倒な計算などにもへこたれずに、粘り強く取り組む強い心を養ってください。

海陽中等教育学校

基礎的な内容の問題では、一定の解答速度が求められます。また、文字数や小数点の表記など、解答条件についての注意を見逃さず、問題文の指示に沿って、ていねいな字で答えてください。漢字で習った用語は、漢字で書くようにしましょう。

算数

問題を解くときは、正しく理解し、計算だけでなく、説明までできるように学習しましょう。入試会場では、問題文をよく読み、あきらめずに手を動かし、粘り強く考えることが大切です。なお、帰国生入試（11月）では、「比と比例」は出題しません。

国語

原則として大問2題で構成されています。論理的文章と文学的文章を多く扱い、記述・選択・空欄補充などをバランス良く出題します。一定以上の文章量があるため、素早く、的確に読めるようにしましょう。どの入試でもやや長めの記述問題が出ます。読み取った内容を、条件に合わせて記述できるように練習してください。

理科

特別給費生入試では、物理・化学分野と生物・地学分野からそれぞれ1題ずつ出題します。入試Ⅰでは、物理・化学・生物・地学の各分野に対し、大問がそれぞれ1題ずつあります。計算問題や記号選択問題に加え、記述やグラフを書く問題なども出題します。周囲の自然現象や実験・観察に興味を持ち、原因や原理を追究する習慣をつけましょう。また、実験や観察のデータから考察する力、問われていることを読み取る力も必要です。なお、すべての入試において、6年生の「電気の利用」は出題しません。

社会

地理・歴史・公民の各分野からまんべんなく出題します。土台となる基礎知識をしっかりと身につけたうえで、理解力・推察力を養いましょう。自分の知っている事柄について、わかりやすく伝えられるようにしてください。

英語（帰国生入試）

記述式試験と面接試験を行います。記述式試験では、英文の内容や意味を日本語で説明する問題も出題します。日ごろから幅広く英文を読み、その内容を自分のことばでまとめる習慣をつけましょう。自分の考えや体験を英語で話したり、正確な綴りのわかりやすい英文で書いたりできるよう、表現の練習をしてください。

ラ・サール中学校

算数

基本的計算と小問で3～4割の配点です。残りは大問が3～4題です。大問は文章問題、平面図形、立体図形、場合の数などから出題し、1題は途中の考え方を書かせる問題にしたいと思っています。計算力をつけるための十分な練習をして、いろいろな工夫を身につけておくとよいでしょう。文章題では問題文をよく読むようにしましょう。

国語

設問で問われていることを的確に押さえます。答えやヒントは必ず問題文中にありますが、単に文中の表現をつなぎ合わせただけの解答では、意味の異なったものになることがあるので注意しましょう。大問は3題です。2題が読解問題で、1題は漢字や語句についての問題です。100～150字で答える記述問題を必ず1問は出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から、大問をそれぞれ1題ずつ出題します。理科の学習では、思考力・観察力・計算力が必要です。また、いろいろな物事に対して興味を持つことも重要です。日ごろ勉強していることを使い、身の回りの自然現象について考えるように心がけてください。

社会

歴史は出来事の背景・内容・結果、そして次の時代への影響を理解することが大切です。地理は日本地理が中心なので、地域の自然（地形・気候）と人々の営みとの関係をとらえる学習をしてください。政治・経済は仕組みを把握することが大切です。また、新聞やテレビを通じて、日本や世界の動きにも注意するようにしましょう。答えは、漢字指定のものは正しい漢字で答えること。ただし、それ以外でも教科書に漢字で出てくるものは、漢字で答えられるようにしておいてください。

大阪女学院中学校

算数

過去問で対策をしっかりやってきてください。基本的な計算が、短時間で正しくできることを求めます。また、平面図形の面積、速さの問題、割合などを幅広く学習してきたかどうかや、変化する二つの数量のグラフを正しく読む力があるかなども試されます。日ごろから、規則性を見つけたり、しっかり考えたりする姿勢を身につけましょう。なお、字はていねいに書かないと、減点や不正解の扱いになります。2021年度は、出題範囲から除く部分がありますので、本校のホームページをご確認ください。

国語

過去問で対策をしっかりやってきてください。小説・随筆・評論など、いろいろな分野の文章を読み、慣れておきましょう。読解のこつは、全体を把握したうえで、個々の問題に当たることです。解答する際は約束事に注意してください。2021年度入試の漢字は、小学5年生までに習う範囲からの出題ですが、「とめ・はね・はらい」まで正確に書けるようにしましょう。字はていねいに書かないと、減点や不解答の扱いになります。また、意味のわからないことばに出合ったら、すぐに辞書を引く姿勢を身につけることも大切です。ことばはすべての勉強の骨となる重要な力を養うものなので、日本語だからと安易に考えないでください。机上だけで国語の学習をするのではなく、日常の生活においても、ことばを大切に用いていくようにしましょう。また、百人一首からも出題するので、親しんでおくようにしましょう。

理科

過去問で対策をしっかりやってきてください。理科はすべての学問に共通する探究心や視点を養う科目です。さまざまな分野を、日常の生活に照らし合わせながら学習していきましょう。教科書にあるすべての実験・観察の図をよく見ておきましょう。しかも、単なる知識ではなく、それをもとにして考える力が試されます。なお、字はていねいに書かないと、減点や不解答の扱いになります。

社会

過去問で対策をしっかりやってきてください。地理・歴史・公民の各分野から幅広く出題します。小学校で習う範囲のことは、しっかりと覚えましょう。学んだことが、これからの自分の生き方にかかわってきます。わたしたちは、過去の情報や身近な情報から未来を創造していくのです。つまり暗記学習ではなく、思考学習を心がけてください。また、字はていねいに書かないと、減点や不解答の扱いになります。試験中は、焦りがあるのはわかりますが、答案に書かれている文字が読めないために減点されるケースは少なくありません。

甲南女子中学校

算数

基本的な問題を確実に解ける力を要求しています。途中の式・計算や、考え方を表す図には部分点があります。単位を書き忘れた場合、約分をしていない場合、式・計算が必要な問題で答えのみを書いた場合は減点とします。A入試2次は、A入試1次・B入試と比べて、難度をやや高く設定しています。過去問を繰り返し練習しておいてください。

国語

例年、文学的文章と論理的文章の長文2題を出題しています。文章の正確な読解力を要求するもので、さらに語彙力や表現力も測るようにしています。具体的には、紛らわしい選択肢をきちんと読み解くことが必要です。また、記述問題も必ず出題するので、記述力も求められます。誤字・脱字は減点とします。書き取りの漢字については、ていねいに書くように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野から出題し、配点はそれぞれ20～30%になるようにしています。図表を読み取る問題と、筋道立てた説明を求める記述式の問題を数問出しています。用語が問われている場合、教育漢字で書くべき用語は正しく漢字で書くように気をつけてください。答えとその理由を記述する問題では、答えのみが正しければ答えのみの点を与え、答えが間違っている場合は0点とします。小学校で習った基本的かつ重要なことを身につけておいてほしいと思います。テレビや新聞などで話題になった科学的な現象や、環境問題・科学技術に関するニュースについても理解を深めておいてください。

社会

地理・歴史・公民の全分野から出題し、配点はそれぞれ30～40%になるようにしています。解答は、小学校で学んだ教育漢字を使用して答えることを求めます。その際、漢字の間違いやひらがなでの表記は減点の対象となります。地理では、地図・グラフ・写真などを使用した問題を高い確率で出題します。歴史は、全体の流れをつかんでいるかを重視し、全時代にわたった問題を出題するように心がけています。公民では、現実に行っている問題について問うことがあります。新聞にも目を通してほしいと思います。どの分野も、教科書の内容がきちんと理解できているかどうかを測っているので、基礎学力をしっかり身につけたうえで、身近で起きている出来事についても理解を深めておいてください。

四天王寺中学校

算数

計算力はすべての問題の基本なので、速く正確にできるように、しっかり練習しておいてください。また、計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心がけて取り組むことが大切です。合格点を取るために、計算問題は式を眺め、特徴をつかんでから、落ち着いて計算し、全問正解をめざしましょう。また、小問や大問の①②は基礎的な問題が多いので、日ごろから数多く基礎を練習し、迅速かつ確実に正解できるようにしておくといでしょう。例年、大問の文章題は、型にはまった問題が少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができません。問題文をしっかり読んで内容を十分に把握したうえで、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフやダイアグラムを作って利用したりするなどして、その場で解法の糸口を自分で見いだせるよう、思考力を養っておきましょう。平面図形では、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、裏返したり、折り返したり、対称性を利用したりするなど、問題によってどこに注目すればよいかを見極められる目を養っておきましょう。立体図形については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で考えられるようにしておくことが大切です。必要な断面や展開図も自分で描けるようにしておきましょう。本校の過去の問題を見ればわかるように、けっして難問・奇問（小学校の学習指導要領の内容を超える分野）を練習する必要はありません。標準レベルの問題を自分で十分に理解し、納得して解くという勉強の姿勢が大切です。

国語

小学校6年生の話しことばにはない、やや古い文章語や抽象的な概念（モノではない思想・考え）を表すことばを用いた文章に慣れることが必要です。毎日、新聞のコラムを読み、現代社会の問題に関心を持って考えることは、語彙を豊かにするだけでなく、大人の文章に親しむという意味でも、とても有効です。長文問題も出るので、演習をするときには記述問題もきちんと書いて“時間内に”解答する力をつけましょう。問題文が長いということは“具体例→筆者の主張”“登場人物の心情の変化”を読み取る力が要求されるということです。傍線部の近くだけを見て“とりあえず解答する”のではなく、傍線部のことばの意味、設問で求められていることを意識して、時間を計って解答する練習を積むことをお勧めします。また、いろいろなジャンルの文章を読むと、話しことば以外の文章語や少し古い言い回しに慣れることができ、読むスピードも速くなります。文章を読むスピードは、読書量に関係します。ちょっと背伸びした読書にもぜひ挑戦してください。

理科

例年、物理・化学・生物・地学の4分野から、ほぼ均等に出題しています。できるだけ偏ることなく、4分野をまんべんなく勉強してください。本校の入試では、実験・実習の結果を示した表やグラフなどをもとにした問題が例年出題されています。そのような問題では、必ず問題文や図・グラフなどの中に、解く鍵やヒントが含まれています。それらを的確に読み取る力を身につけておくことが必要です。そのためにも、日ごろから問題文は注意深く最後まで読み、何が答えとして求められているのかを見

抜く力を養っておいてください。また、文章で答えるときは、理科の用語を的確に用いるとともに、ポイントをつかんだわかりやすい表現にまとめることが大切です。したがって、理科で学ぶ重要な「用語」「化学式」「単位」などは正確に理解し、特に用語は正確な漢字で書けるようにしておいてください。さらに、自然や身の回りの科学事象に対して、ふだんから興味を持って観察するとともに、理科で学習した知識が、生活のなかではどのようなところで応用されているかなどにも、関心を持って学習を進めていきましょう。

社会

【地理分野】地理はその地域の特色をとらえる分野なので、学習するときには地図をよく用いて、地名などは必ず場所を確認するようにしてください。また、統計の読み取りや産業の特色もよく理解しておいてください。

【歴史分野】歴史は時代ごとの特色（しくみ）をとらえ、その変化（流れ）を理解する分野です。ふだんから時代区分をしっかりと意識して学習する習慣をつけておきましょう。年代整序問題などに取り組むのもよいかもしれません。歴史分野にかかわる地図や統計に目を通しておくことも重要です。

【公民分野】必ず時事問題を出題しています。ふだんから社会の様子、世界の出来事に関心を持ってほしいからです。そのための基本となるのが教科書の学習です。「政治のしくみ」「憲法」「世界の中の日本」など、幅広く学習しておいてください。

【全般】どのような問題に対しても、正確なことばや文章で答える習慣をつけてください。教科書で用いられている漢字は、ひらがなやカタカナで書いてはいけません。解答するときは時間配分にも気をつけましょう。

同志社女子中学校

算数

教科書の内容を踏まえて、皆さんの応用力を試す問題を出題しています。具体的には、計算問題、数の性質、場合の数、割合、文章題、速さ、変化する量とグラフ、平面図形、立体図形など幅広い範囲から出題しています。特に、分数や小数についての理解を深めておいてください。複雑な計算をしなくてはならない問題もあるので、正確に素早く計算して答えを出せるよう、日ごろから計算練習をしっかりとしておいてください。教科書だけでなく、問題集でもしっかりと練習をして、力をつけておくことが大切です。2020年度と同様に、答えの求め方も書く問題を1題出題します。途中まで合っていれば、部分点も与えます。テスト当日は、約分はきちんとできているか、問題の指示にふさわしい答えになっているかなどをしっかりと確かめて検算もして、正確な答えを書くようにしてください。

国語

例年、文学的文章と説明的文章の両方を出しています。ふだんから小説・随筆・説明文などさまざまな種類の文章に触れて、「読む」ことに慣れておきましょう。限られた試験時間内に、すべての問題を消化するには、本文を素早く読み、内容を正しく把握する必要があります。そのためにも、日々の読書を心がけてもらいたいと思っています。また、わからないことばや漢字が出てきたら、その都度辞書を引いて、意味や読み方を確認する習慣をつけておくとよいでしょう。なお、「本文から抜き出して答えなさい」という問題では、たとえ一文字でも漢字の間違があると、正解にはならないので、注意してください。

理科

毎年、理科の四つの分野（物理・化学・生物・地学）から出題しています。単に暗記した知識に頼るのではなく、しっかり問題文を読み、よく考えて答える姿勢が大切です。例年、そのようによく考えて解く問題を出題しています。一見、習ったことのないような問題もありますが、問題文をじっくり読めば、これまで学んできたことを応用すれば解けるとわかるでしょう。また、最近話題になり、関心が持たれた理科的な事柄についても、出題することがあります。記号を選んで解答する問いだけでなく、用語を書いてもらう問いもありますので、基本的な用語は正確に書けるようにしておきましょう。「漢字で書きなさい」という指示がある場合は、必ず漢字で書きましょう。

社会

全般的な傾向は、ほぼ例年どおりです。各分野の配点の割合は、地理分野が3割、歴史分野が4割、公民分野が3割程度です。分野をまたいだ問題もあるかもしれません。基本的には、小学校の教科書の範囲から出題するように心がけています。ただし、発展的な内容の問題が含まれる可能性もあります。なお、出題に当たっては、複数の出版社の教科書を参考にしています。教科書の本文だけでなく、「図表・地図・年表」などもよく学習しておきましょう。例年、4分の1程度が「語句の記述問題」です。そのなかで、漢字や仮名の指定、あるいは文字数の指定がある問題については、指定に従っていない解答は無条件に

0点です。また、教育漢字以外の漢字を使うものであっても、社会科の基本的な用語や地名・人名については、漢字で書けるようにしておいてください。時事的な問題が出題されることもあります。日ごろから新聞を読むこと、テレビのニュースを見ることを心がけ、基本的な事項と関連づけて学習しておきましょう。

開明中学校

算数

例年、全日程とも、**①**は計算問題、**②**は小問集合、**③**～**⑤**は文章題という形式で出題しています。また、**①**と**②**で配点の約半分を占めていることからわかるように、全体的に基本から標準レベルの出題を心がけています。特に、平易な計算問題を確実に解く力を重視しています。文章題は難問・奇問を避け、規則性を読み取ったり、グラフや図から考えたりするような、理論的に物事を考えさせる問題を出題するようにしています。そのため、問題文が長いのが特徴です。内容は、速さ・規則性・割合の分野が多くなっています。

国語

説明的文章から1題、文学的文章から1題の計2題を出題します。各設問の内容は、漢字・語彙・空欄補充、指示語や傍線部の理由を問う記述問題、文章の要旨を問う客観(記号)問題などで、基本的な国語力を問うものばかりです。説明的文章なら、文章を書いていることばどおりに、自分の意見を挟まずに正確に読み取る力を、文学的文章なら、登場人物の心情を表現や風景描写などの記述から、正確に読み取る力を身につけましょう。そのためには、ふだんから本を読み、たくさん問題を解くことが大切になります。また、わからないことばに出合ったら辞書を引くなどして、ことばにも慣れ親しんでおきましょう。

理科

出題の傾向と分量は例年どおりで、難問・奇問はなく、標準的な問題を出題するよう心がけています。難問・奇問は出題しません。みんなの知らないことを知っているかどうかではなく、大事なところや勉強しておかなければならないところを押さえているかどうかを問うようにしています。また、単位は解答欄にあらかじめ入れてあります。受験生に求めていることは、「基礎的な知識を覚えていること」「実験結果から、関係性を見つけること」「関係性を用いて、数値計算ができること」「実験結果を表やグラフなどにまとめること」「自分のことばで説明できること(記述力)」です。以上の点を意識して、日ごろの学習に当たってください。

社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野のいずれも、基本的な内容を中心に、多少の幅を持たせて出題しています。語句の記述だけでなく、人物と事件、自然と産業、関連事項や因果関係などを含めた基本的な理解が定着しているかを問う問題が多くなっています。問題文を含めてグラフ・地図・表・図版などの分量が多いことから、限られた時間で分量のある問題文をていねいに読み取って解答することが求められます。これらのことを念頭に置いて、基本的な知識を身につけるとともに、さまざまな形式の問題をこなしておきましょう。問題数は45～50問で、配点は歴史的分野が20点、地理的分野と公民的分野が各15点の50点満点となっています。

関西学院中学部

A 日程は、午前に 3 教科の筆記試験（国語・算数・理科）を行います。B 日程は、午前に 2 教科の筆記試験（国語・算数）を行います。A 日程と B 日程とで難度の差はありません。また、難度や出題の傾向なども、原則として、2020 年度までと変わりません。

算数

計算問題、答えだけを求める穴あき小問、記述を求める大問とで構成されています。

国語

物語的文章と説明的文章の長文二つで構成されています。文中のことばを抜き出す問題が多く、書き取りについても、小学校で学習する教育漢字に限定しています。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野をバランス良く出題します。多くは選択問題で、50 問程度となります。小学校の教科書の範囲に沿っています。

金蘭千里中学校

算数

難問を避け、基礎から標準レベルの問題を幅広い分野から出題しています。計算、文章の読解、図形の計量、数え上げ、規則の発見、工夫の仕方などの力を、典型的な中学受験問題をたくさん演習することによって身につけてください。なお、前期Aの一部では、記述式の問題もありますが、今までどおりの学習のなかで解法の理解を大切にすることで対応できるものになっています。

国語

〈文章の読解力〉読解力の基本は読書によって身につきます。時間を見つけて、いろいろな種類の文章や本をたくさん読むようにしましょう。読むことに慣れれば、読む速度も速くなり、長い文章が出題されても、十分に対応できるようになります。また、小説・物語に多く触れていれば、登場人物や書き手の心情を読み取ることもできるようになります。

〈ことば〉ことばの数を増やすためにも、読書は役に立ちます。しかし、ただ読むだけでは力は身につけません。わからないことばが出てきたときには、必ず辞書で確かめるようにしましょう。そして、その意味をノートに記録しておきましょう。面倒だと思かもしれませんが、そうやって手間をかけたことばは記憶に焼きついて、忘れなくなるものです。

〈漢字〉漢字の力を身につける方法も、ことばの勉強法と同じです。文章を読んでいて、わからない漢字が出てきたときは、すぐに漢字辞典で調べ、ただ見るだけではなく、必ず何度もノートに書いて覚えるようにしましょう。そのときは、「とめ・はね」などの細かいところまで正確に練習していくようにしましょう。また、同じ読み方のことばの使い分けも大切です。それぞれのことばの意味をよく理解して、どう使い分ければいいのかを考えるようにしてください。

理科

理科で使う用語や、自然現象に見られる規則性は、知識として暗記するだけでなく、その意味を理解して使えるようにしておきましょう。日ごろから身近な自然現象に関心を持ちながら学習することが大切です。また、問題文を正しく読み取る力を養い、計算も正確にできるようにしましょう。計算式の意味はきちんと理解して、順序立てて考えるよう心がけるのも大切です。なお、計算問題は通常、分数・小数のどちらで答えるかを指定します。6年生の3学期に学習する範囲は、考え方などに配慮して問題を作成します。

社会

30分という短時間の割には問題数が多いので、問題文を慎重に読みつつも、てきぱきと解答していく必要があります。また、必ずしも大問の①から始めなくても、地理・歴史・公民のうち自分の得意な分野から手をつければよいと思います。地理では、グラフや表の読み取りに慣れておくこと、歴史では、「人物名－業績－時代」をセットで覚えておくことが大切です。公民では、毎年一つのテーマに沿って出題していますが、時事的なことも視野に入れてください。そして、特に指示がなくても、基本的な事項は漢字で正確に書くよう

にしてください。細かい「とめ・はね」までは見ませんが、乱雑な字は減点することもあります。

高槻中学校

【2021 年度入試の変更点】

2021 年度は、A 日程の定員を少し増やし、B 日程の定員を少し減らします。具体的には、A 日程は男子 120 名・女子 60 名、B 日程は男子 60 名・女子 30 名となります。

【出題範囲に関する配慮事項】

新型コロナウイルス感染症によって、小学校の休校が続いたことに配慮して、2021 年度入学試験における出題範囲に関する配慮事項を定めました。国語・算数・英語では配慮事項はありません。理科は「自然とともに生きる」「人と環境」「地球に生きる」の内容を除きます。社会は「世界の中の日本」の内容を除きます。

算数

試験では、正確で、高い計算処理能力と、典型的な問題を確実に解ける学力が必要です。さらに、文章読解力および知識を複合的に活用する能力を問う問題を出題します。図形では、平面図形や立体図形を的確に認識する能力を見る問題を出題します。2018 年度入試からは、配点の 2 割に相当する記述式問題を 1 題出しています。

国語

漢字の書き取りは、教育漢字の範囲からの出題です。慣用的な表現を中心にした基本的なことばの力を問う問題もあります。また、説明的な文章を正しく読み取る力、文学的な文章を人物の心情に即して正しく読み取る力を見る問題を出題します。与えられた文章の要点、理由や人物の心情を 80 字程度で書く設問があります。

理科

理科においてまず必要なのは、小学校レベルの基礎知識です。文章を読み、そのなかに出てくる新しい事柄を理解し活用する能力が問われます。また、時事問題への興味と関心、自然観察の経験や、小学校で理科の学習に真面目に取り組んだ経験を重視する問題を出題します。さらに、新学習指導要領に基づいた新しい学力観である「思考力・判断力・表現力」を測る問題もあります。

社会

地理・歴史・公民のすべての分野で必要なのが、社会科の基礎的知識とその応用力、思考力です。社会的事象への興味と関心を広く持つことが大切です。また、地図・統計・資料・写真などを分析する力を問う問題も出題します。歴史では、歴史への興味、史料の解釈、文章読解力を問います。時事問題への関心を問う問題もあります。

帝塚山中学校

算数

最初に小問集合があります。ここでの失点は大きな痛手となりますので、正確で速い計算力を身につけ、確実に得点できるようにしておいてください。また、解きやすい問題から手をつけることも重要です。時間配分を間違えると、試験時間中にすべての問題に当たることができなくなってしまいます。規則性の問題、水の量の変化の問題、点・図形の移動の問題は頻出です。2012年度までは、英数型と特進型の二本立てで作問をしていましたが、2013年度の入試からは英数型に一本化しました。後半の大問に進むほど難度を上げるというのが、1次A・1次B・2次A・2次Bに共通した出題方針です。

国語

長文を2題出題します。大問①が評論文、大問②が物語文というのがだいたいの傾向です。長めの文章を読む訓練を積み、しっかり対策をしておいてください。50字程度の抜き出し問題や、50字程度で説明する問題を出題することもあります。文章中の「それ」「これ」などの指示語にも注意してください。漢字の書き取り、読みの問題は、例年必ず15問ほど出題しています。語彙力を強化し、漢字の練習もしっかりしておいてください。

理科

試験時間が短いので、素早く、正確に答えを導けるかがポイントになります。問題によって難度には差がありますので、試験が始まったら、まず問題全体を確認して、解きやすいと思うものから解答していきましょう。毎年、物理・化学・生物・地学の各分野からまんべんなく出題します。苦手な分野を作らないようにしてください。

内容は、知識問題・計算問題・実験考察問題です。まずは、教科書に載っている生物の名前、実験の概要、実験器具の名称や使い方などを確認しておいてください。実験考察問題は問題文が長いこともあり、実験設定が複雑な場合もあります。しっかりと問題文を読んで、実験の内容を理解し、まとめることができるようにしておきましょう。

ふだんの学習の成果が出るような問題となっています。まずは教科書をしっかりと読み込むことから始めましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野からまんべんなく出題します。重要な用語は漢字指定となっていますので、正しい漢字で解答できるよう練習しておいてください。地理分野では地図帳も出題範囲ですので、重要な地名や位置を、地図帳を使って確認してください。歴史分野では、重要な出来事がいつ起きたのか、人物がいつごろ活躍したのか、その順序を押さえてみましょう。それと同じ時代に、ほかに何があったのかといった視点からの整理もしておいてください。公民分野では、時事問題を出題することもありますので、最近の世界の動きにも目を配っておいてください。なお、分野別の問題のほかに、融合問題を出題することもあります。

同志社中学校

算数

基本的な事項を確認する問題から、問題文を理解し、思考を積み上げて解答を導き出す力の必要な問題までを出しています。出題形式は例年と同様です。基本的な計算力や学習内容をしっかり身につけてください。また、公式ややり方を丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」を自分で考え、発見する学習を期待します。“1あたり量”（速さ、人口密度など）は「m/秒」「人/km²」のように、「/」（パー）を用いて表記しているので、注意してください。

国語

さまざまな文章を読み取る力を見ることと、小学校で学習する言語事項（文法・漢字など）の知識を見ることを主眼に置いて出題しています。日ごろからあらゆる分野の文章に接して、内容を把握する力を身につけてください。小学校での学びを大切にし、幅のあるものの考え方を身につけましょう。

理科

小学校の教科書などの基本的な内容から応用的な力までを見ます。基本事項の暗記やパターン学習にとどまらず、「なぜそうなるのか」を考えられるか、実際に観察されることから学び取っているか、自然に対する興味があるかを確かめるような出題にします。小学校での授業を大切にして、教科書や資料集にある内容をしっかり理解しておきましょう。また、「なぜそうなるのか」を考えるようにすると同時に、それを応用できるように思考する習慣も身につけましょう。自然に接する機会を多く持つことも大切です。

社会

小学校の教科書や資料集にある内容をしっかり理解し、学習しておくことが大切です。日ごろから、新聞やニュースの話題に触れて、時事問題や、さまざまな地域・産業にかかわる出来事、歴史的事象などについて、自分の視野を広げておきましょう。小学校での授業を大切にする、自分の関心のあることを本や資料で調べてみる、地理や歴史についてのフィールドワーク・社会見学などの体験を試してみる、といったふだんからの心がけが大切です。また、新聞やニュースに関心を持って、今、世界や日本では何が起きているのかを知ることも必要です。さまざまな課題についての自分の考えを、日ごろから人と話してみよう。

西大和学園中学校

入学試験作問上の留意点

- ①出題の形式は、本校のこれまでの入学試験問題の形式に準ずる。
- ②問題の構成は、基礎的な事柄から発展的な事項へと掘り下げていくように工夫する。
- ③出題の難度は、平均点を満点の65%前後になるようにする。

【本校で実施する入試】

算数

大問は4題です。①は日ごろの努力の成果が表れやすい基本から標準レベルの問題を10問程度出題します。分野は計算・逆算、数の性質、場合の数と理論、規則性・速さ・割合などに関する文章題です。②では同じく基本から標準レベルの図形に関する問題を5問程度出題します。③では①・②と同じ分野で、やや難度の高い標準から応用レベルの文章題を5問程度出題します。④は調査力・整理力・推論力・表現力を複合的に問う問題です。こうした問題を通して見たいのは、次の4点です。①迅速かつ正確な計算力に裏打ちされた、確実性の高い、効果的な方法を選択できる能力、②基本的な解法や数理的論法の習得度、③問題の設定や条件を正しく理解し、解答に必要な形に再構築できる能力、④具体的に例を考え、試行を繰り返すことで、問題の根幹となる規則性や原理を導き、正答につなげる能力。正答率の高い問題でのケアレスミスがなくし、適正な時間配分ができるように練習することが大切です。問題文が長い問題や複雑な処理を含む問題でも、粘り強く、最後まで考える習慣をつけるようにしましょう。

国語

大問3題を出題し、論理的文章・文学的文章などを通して、読解力・語彙力・表現力を見ます。書き取り問題では漢字は崩さず、ていねいに書きましょう。「はね・はらい」がいい加減な場合は、減点もしくは得点を与えないことがあります。説明問題では答え方に注意すること。「～から」「～こと」など、題意に合わせた文の終わり方にしましょう。記述問題では、首尾一貫した文を書くことが大切です。誤字・脱字は減点します。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問1題ずつを出題します。配点は、各分野ともおよそ25点ずつです。基本的な知識を問う問題、正確な計算力を試す問題、実験・観察に関する操作についての理解を問う問題、実験・観察の結果や現象に対する考察力を試す問題、時事的な事柄に関する問題などがあります。小学校で学習した内容を十分に理解しているか、思考力や理科に対する興味があるかを確かめる内容にします。比較的解きやすい問題から順に並べるようにしています。時間配分をよく考えて、基本的な問題でミスをしていないように、解答方法に関する指示を守って解いていくようにしましょう。指示どおりでない解答は、内容が合っても得点を与えません。約分していない分数や漢字の間違いなどは減点するので、注意が必要です。一問一問ていねいに解き、特に計算問題には、落ち着いて取り組むことが大切です。

社会

「5年生までに学習する内容（主として地理的分野）」と、「6年生で学習する内容（主として歴史・公民分野）」をほぼ同じ割合で出題します。各分野を融合した総合的な問題もあり得ます。地理的分野では、地図・統計・写真やその他の資料を用いて、日本や世界の諸地域に関する知識や地理的見方を多角的に問います。時事的な問題についても、地図などを用いてしっかり確認しておきましょう。歴史的分野では、政治・経済・文化の各内容について、理解できているかを問います。時事問題と関連する内容についても出題します。教科書の注釈・図表・写真などにも注意しましょう。公民的分野では、教科書（小6「下」中心）の該当部分を隔々（注釈・図表・写真などを含む）まで学習しておきましょう。教科書に掲載されていない事項であっても、最近新聞などで話題となった、常識として知っておくべき重要な事象についての出題は十分にあり得ます。入学試験で試したいのは、次の3点です。

①「社会科」で求められる基礎知識とそれを正確に漢字で書く力、②地図・統計・写真・その他の資料を、多角的な視点で分析する力、③時事問題への興味・関心を持っているか。用語に関しては、漢字で解答できるように練習しておいてください。仮名書きは減点になる可能性があります。例年、歴史的分野より、地理的・公民的分野での現代社会の知識で大きな差がついています。

【札幌・東京・東海・岡山・広島・福岡会場入試】

算数

典型題を通して、標準的な問題を解く力と計算力を見ます。高度な思考力を問う問題も出題するので、問題文を読み取り、いろいろな条件を整理する力をつけてください。

国語

前年度と同様、説明的文章と文学的文章をそれぞれ1題出題します。小学校6年間で習得すべき水準の語彙（表現）を身につけて、教育漢字もしっかり練習しておきましょう。説明的文章については、要点を整理し、筆者の主張を正確に読み取って、それを説明できるようにしておく必要があります。また、文学的文章については、描かれている情景を正確に読み取り、登場人物の心情や書き手の思いを的確につかめるようにしておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問を1題ずつ出題します。小学校で学習した内容を十分に理解しているか、思考能力や理科に対する興味があるかを確かめるような内容にします。比較的解きやすい問題から並べる傾向があります。配点は、大問1題につきおおよそ25点です。時間配分をよく考えて、基本的な語句を問うような問題でのケアレスミスをなくすことが大事です。解答の方法に指示があれば、それを守って記入しましょう。指示どおりではない解答や、約分していない分数、漢字の間違いは減点します。計算問題は、落ち着いて考えましょう。問題演習などで、一問一問ていねいに取り組むことが大事です。

物理分野では、基本事項やパターンの暗記にとどまらず、もう一步踏み込んで「なぜそう

なるのか」を考えましょう。そして、それを応用して、深く考える習慣をつけましょう。化学分野でも、実験を通して「なぜそうするのか」「なぜそうなるのか」を考えるようにしてください。生物分野では、実験や観察を通して、生物とそれを取り巻く自然現象に関する原理や法則を理解する習慣を身につけましょう。地学分野では、語句や数値を暗記するだけでなく、さまざまな現象がどうして起こるのかを考えるようにしましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野からまんべんなく出題します。地理的分野では、地図や統計を読み取る力や、社会的事象に関する関心・理解を見る問題を取り入れています。歴史的分野では、政治・経済・文化の各内容について理解できているかを見ます。教科書や資料集の注釈・図表・写真などについても注意しておきましょう。公民的分野では、教科書（小6「下」中心）の該当部分を隔々（注釈や図表などを含む）まで学習しておきましょう。教科書に掲載されていない事項であっても、ここ数年、新聞などで話題となった、常識として知っておくべき重要な事象についての出題は十分にありえます。

雲雀丘学園中学校

算数

中学校で学習する数学に対応できる基礎学力を十分に備えているかどうかを確認するために、標準的な問題を中心に、各分野から幅広く出題しています。また、思考の柔軟さが必要な問題も取り入れています。さらに、問題文の読解力を重視し、内容を適切に把握する必要がある文章題も出題しています。計算を正確に実行する能力は、算数のあらゆる問題で必要になります。計算練習を繰り返しましょう。特に、かっこを含む式や、分数・小数のまじった式の計算問題では、途中の式を残し、計算の過程をたどることができるようにしておくとい良いでしょう。文章題は算数の学習の中心を成すものです。問題集で基本的な問題を偏りなく練習してください。その際、解法のパターンを暗記し、それに当てはめて答えを求めるようなことは好ましくありません。問題文をしっかりと読み、内容を把握してから、線分図・表・グラフなどを活用して情報を整理し、ゆっくりと考えて解答を導くように心がけましょう。図形の問題では、まずは図形の基本的な性質を理解してください。図形の公式を定着させておくこと、複雑な小数計算に対応できることも大切です。

国語

大問として、小説と説明文をそれぞれ1題ずつ出題します。長文に慣れておく必要があります。漢字・慣用句・文法といったことばに関する問題も例年出題しています。日ごろからことばを意識して学習してください。読解問題では、登場人物の心情や指示語の確認、それらを説明する記述などを出題しますが、文章中に必ず解答につながるヒントがあります。ことばをていねいに読み進めていくことを大切にしてください。読みを深める問題も出しますが、基礎力の組み合わせで解けるので、基本的な解答練習を徹底することを心がけてください。

理科

教科書に載っている基本的な用語は、正確に覚えることが大切です。教科書に漢字で書いてある用語は漢字で答えてください。基本事項での得点率と合否との関係は明確に出ています。難易度を問わず、どの問題も問題文を読む力が重要です。また、実験問題の出題が多いので、実験内容を確実に押さえておく必要があります。物理・化学・生物・地学の4分野からバランス良く出題するので、まんべんなく学習するように心がけてください。

社会

都道府県名や時代の名前など、教科書に漢字で書かれている用語は、難しいものであっても漢字で書けるようにしましょう。社会科の入試は、2020年度に導入されてまだ2年目なので、教科書や問題集で重要とされている部分を中心に、まんべんなく出題します。特定の分野に偏った勉強はお勧めしません。読解力の必要な問題の対策としては、問題文を最後までしっかりと読む練習をしましょう。グラフや表を使った問題も出題します。がんばってください。

英語

中学卒業程度（英検®3級レベル）の難度です。筆記試験は30分で、300語程度の長文を1題と、文法問題、テーマ英作文を出題する予定です。文法力・単語力はもちろん必要ですが、英語で書かれた文章を一定時間内に読み通し、素早く内容を把握する力（読解力）が最も重要です。また、筆記試験後に5分程度の英語面接試験を行います。こちらも英検®3級程度の難度です。課題文に関する質問に対して、適切に答えられるかどうか重要なポイントです。4技能（読む・聞く・書く・話す）をバランス良く身につけるように心がけてください。

洛南高等学校附属中学校

算数

正確にすばやく処理できる計算力を身につけることが大切です。毎日の練習で少々長い計算にも耐え得る力を養いましょう。その際に、工夫をすることによって簡単に計算できる方法がないかを考えてください。工夫し、考えながら問題を解くことで、さまざまな問題に対応できる応用力をも身につけることができます。また、文章題を解くときには、論理的な展開を意識しながら、筋道を立てて考えていくことが重要です。自分がどのように考えたかを順序立てて式に表し、ていねいな解答を作るよう心がけてください。

国語

第一に、まとまりのある文章（意見文・物語文）について、さまざまなタイプの問題を出題します。問題をてきぱきと、どんどんこなしていく能力が必要です。第二に、各設問が出題された意図を正確に見抜き、本文に根拠を求めながら解答を正しく選択したり、記述したりする能力が問われます。解答の文末を「…すること」とするか、「…から」とするかを判断する力や、誤字・脱字のないように、ていねいに答案をまとめていく能力が必要です。第三に、言語感覚が問われます。ことわざ・慣用句・外来語や特殊で味のある言い回しなどについても、ふだんから高い興味や関心を持ちながら文章を読む習慣を身につけてください。

理科

わたしたちの身の回りには、さまざまな自然があふれています。動植物もたくさんあり、いろいろな天文現象、気象現象も起こっています。しかし、ふだん意識してそれらに目を留めることはあまりありません。まずは、身近な自然をおもしろいと感じることができる好奇心を持って、身の回りの物事を見つめ直してほしいと思います。さらに、そのような自然の「しくみ」にも興味を持って、身近なことを題材とした実験結果の図やグラフの読み取り、起こるであろうことの予測、そして計算などができるように、学習を進めていってください。

社会

これまで起こった出来事が、現在起こっている出来事につながっています。そして、現在起こっている出来事がわたしたちの世界をつくっています。ですから、一つの用語をただ暗記するのではなく、その用語の背景や用語どうしのつながりを把握する学習を心がけてください。用語を覚えて終わりではなく、その意味や背景、関連する内容をほかの人に説明できるかどうか大切です。史料問題やグラフ・統計問題も出題するので、資料集や地図帳なども見て、それらを読み解くトレーニングも必要です。また、簡単な時事問題も出題します。ふだんから新聞・テレビなどを通じて、最近の日本や世界で起こっている出来事にも広く関心を持つようにしましょう。